

第1回教育研究所運営協議会

6月16日（火）に野洲図書館で第1回野洲市教育研究所運営協議会を開催しました。

運営協議会委員は、校長代表1名、教頭代表2名、教諭代表1名、市PTA連絡協議会1名、市内各校運営協議会委員代表2名、園長代表2名、県総合教育センター代表1名の計10名です。当日は、関係機関から担当者6名も参加し、計15名（1名欠席）で今年度の教育研究所の事業・基本方針を協議しました。



2026(令和8)年度 研究所の事業・基本方針

A 教育研究所の事業について

1. 本研究所の目的 教育に関する調査研究及び教育関係職員の研修を行い、本市教育の振興に資することである。（野洲市教育研究所条例第3条）
2. 教育研究所の主な事業

- | | |
|-------------|---------------------------|
| (1) 研修・研究助成 | ……………教師力のスキルアップ授業研修等 |
| (2) 調査研究 | ……………研究員によるテーマ研究、まなび野洲検定等 |

野洲市教育研究所2026リーフレット（別紙）

B 野洲市の教育 「具体的な施策」より 教育研究所に関連した箇所の抜粋

【令和8年度 野洲市の教育方針】より

1. 令和7年度をふりかえって

- ①全国学力学習調査から見た課題
 - ・「複数の情報を整理・比較して結論を導く」
 - 「根拠を提示して、論理的に理由を説明する」
 - 「解決方法を考える、条件を変えて検討する」
 - ・ICT（一人一台端末）の活用に関する課題



・「個別最適な学び」
「協働的な学び」を
一体的に充実して
いくことで、「主体
的・対話的で深い学
び」の実現

②教職員の資質向上

- ・児童生徒への性暴力防止等の研修を複数回実施し、未然防止
- ・いじめを見逃さないため、しっかり認知できるよう研修を実施
- ・様々な内容の夏季研修を実施
- ・先輩教員から学ぶ機会を設けると共に、授業力向上を目指した研究授業を実施

2. 令和8年度の具体的な施策

子どもの「生き抜く力」を育てます ～学校教育を中心として～

- ・全国教員研修プラットフォームを活用し、いつでもどこでも研修を受ける機会が設けられていることを生かしながら本市でも独自の研修を企画・考案し取り組んでいく。各校では、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を促進し、主体的な教員の学びを支援し、指導力と授業力の向上に努める。

委員の皆様からは、学校との関わりや若手教員の育成の現状及び建設的なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見を反映できるよう努めてまいります。

子どもが読みたくなる 夏休みイチオシの図書



何度も手に取ってじっくり読んでほしい絵本大賞に輝く作品や京都の中学校・高校の学校図書館関係者がおすすめしている「司書のイチオシ本」を紹介します。



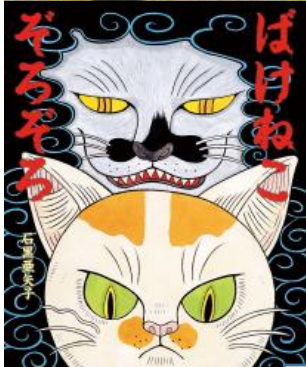
ゆうやけにとけていく

ザ・キャビンカンパニー／作

小学館

日本絵本賞 受賞

だんだんと沈みゆく太陽を背景に、ジャングルジムで遊ぶ男の子、悔しくて石を蹴る女の子、買い物帰りの親子などが描き出されます。それぞれのシーンのいろいろな感情を、夕焼けがやさしく包み込み、誰にでも静かな夜がやってきます。ページをめくる度に少しずつ沈んでいく太陽が印象的な、静かに噛みしめる雰囲気絵本です。昭和初期を思わせるような少しノスタルジックな絵で展開します。



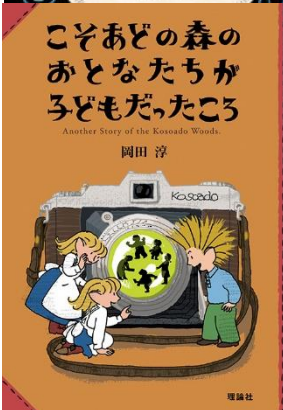
ばけねこ そろそろ

石黒亜矢子 作 あかね書房

日本絵本大賞 受賞

ぎゃおぎゃお にゃおにゃお！ 妖怪ねこがやってくる!!

かあさんはねこが大好き。おれがねこにいじわるすると、ばけねこに仕返しされるよと言う。そんなのこわくなかったけれど、家ねこも、のらねこも実はみんなばけねこだって。どうしよう…!? ぶきみでかわいい妖怪ねこたちが登場する絵本。家ねこのトンに助けられながら夜の町を冒険する主人公はばけねこの仕返しをかわすことができるかどうか。両開きのページでは、夜の町をねり歩く、ばけねこたちのパレードが楽しめます。



こそあどの森のおとなたちが子どもだったころ

作 岡田淳

理論社

産経児童出版文化賞 受賞

この森でもなければ、その森でもない、あの森でもなければ、どの森でもない「こそあどの森」。スキッパーが借りた本に挟まっていた、トワイエさんが子どものころの写真。いつどこで撮ったもの? スキッパーとふたごは、写真にまつわる話を聞きにトワイエさんを訪ねます。おとなたちにも子どものころがあったんだ!とあらためて気づいて、次はトマトさん、ギーコさん、ポットさんスミレさん……「こそあどの森」のおとなたちの話を順に聞かせてもらおうとどれも、とっておきの不思議なお話ばかり。「こそあどの森の物語」全12巻の番外編として書き下ろされた、シリーズ初の短編集です。



鈴の送り神修行ダイアリー

山下 雅洋 作

酒井 以 絵

岩崎書店

児童文芸新人賞 受賞

中2の鈴は、夏休みに田舎で池に落ちて溺れてしまう。目覚めた場所は、「あわいの世界」。そこで送り神修行をした7日間の物語。

中2の鈴は、夏休みに田舎に帰省したが、ひょんなことから池に落ち、溺れてしまう。目覚めた場所は、この世とあの世の「あわいの世界」。そこには、死者の魂を送る死神・左衛門と八重という名の少女がいた。鈴は、左衛門のもとで送り神の修行をして、死を通じて生きることを見つめ直す7日間を過ごす。



てまりのナゾほどき帳 出島と秘密の紅い石

著：荒川 衣歩

講談社

講談社児童文学新人賞 受賞

舞台は鎖国が続く江戸時代の長崎。異国にあこがれる少女てまりのひと夏の青春ミステリ冒険譚!

13歳の少女てまりと父が営む古手屋(古着屋)に、ある夏の日、はんてんが持ち込まれる。季節外れの商品なのに、持ち込まれた翌日、はんてんは高値で売れてしまう。それからしばらくして、また同じようにはんてんが持ち込まれた。気になったてまりが、裏側のあて布をほどいてみると、なかから出てきたのは紅玉(ルビー)だった――。



王様のキャリー

著 まひろ

講談社

講談社児童文学新人賞 小学館児童出版文化賞 受賞（他社の賞も受賞）
中学二年生の勝生には、最近ハマっているeスポーツのストリーマーがいる。名前は「lion」。不遜な態度と、見るものを魅了するプレイングから、ついたあだ名は「王様」。

ある日訪れた病院で出会った車いすに乗った少年の声は、lion そのもの。思わず正体確かめた勝生に、lion ことリオは、「ゲームでキャリーしてやる」という。ゲームを通じて友情を深める二人だが、ある日大会の招待状が届き…。読む者の心を震わせる、「王様」と「家臣」の友情ストーリー！



朔と新

いとう みく 著

講談社

野間児童文芸賞 受賞

視力を失った兄の朔（さく）が盲学校から1年ぶりに家へと帰ってきた。朔と弟の新（あき）は、一昨年の大晦日、正月を迎えるために高速バスで父親の故郷に向かい、事故に巻き込まれた。新が母親と衝突したことが原因で本来の予定より一日遅れでバスに乗ったのが運命を変えたのだ。中学時代、新は長距離走者として注目を浴びていたが、ランナーとしての未来を自ら閉ざし、高校でも走ることをやめた。そんな新に、突然、朔が伴走者になってほしいと願いを伝える。激しく抵抗する新だったが、自責の念もあり、その願いを断ることはできなかった。兄と弟は1本のロープをにぎりコースへと踏み出してゆく。



謎の香りはパン屋から

作 土屋うさぎ

宝島社

『このミステリーがすごい!』大賞 受賞

謎はクロワッサンのように折り重なり、カレーパンのように刺激的！パン屋さんでの『日常の謎』を解く“美味しい”ミステリー

大阪府豊中市にあるパン屋〈ノスティモ〉（ギリシャ語で「美味しい」という意味）でアルバイトをしている大学一年生の市倉小春。

そこに持ちこまれる数々の謎を解決する小春の推理と活躍！

焼きたてのパンの香り漂う〈日常の謎〉連作ミステリー！

読後はおいしいパンが食べたくなります。



僕には鳥の言葉がわかる

著 鈴木俊貴

小学館

「シジュウカラのことが好きだ、もっと知りたい」というまっすぐな気持ちで自然の中に身を置いて根気強く鳥たちをよく観察する姿に感動します。文系、理系、アウトドア派、インドア派問わず、何かを「好き」と思う気持ちを大事にすることで、日常生活の中でも新鮮な驚きや気づきが得られ、ひいては世界的な発見にまで繋がる——これは読者の皆さまにとっても、ポジティブなメッセージとなることと思います。

言葉を持つのは人間だけであり、鳥は感情で鳴いているとしか認識されていなかった「常識」を覆し、「シジュウカラが20以上の単語を組み合わせで文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者による科学エッセイ。



それいけ!平安部

著 宮島 未奈

小学館

県立菅原高校の入学式当日、同じクラスになった平尾安以加から「平安時代に興味ない?」と牧原栞は声をかけられた。「平安部を作りたい」という安以加の熱意に入部を決めるが、新部を創設するには5人の部員が必要だった。あと3人(泣)!! クラスメイトから上級生まで声をかけ、部員集めに奔走するが——「平安部って、何やるの?」

聖地巡礼で多くのファンが天津を訪れるようになった成瀬シリーズに次ぐピュア度100%! 宮島未奈さんのハートフル青春小説。